

奥出雲の 農林畜産システム

奥出雲の先人は、自然資源を利用し、砂鉄、木炭、粘土を用いて鉄をつくり出してきました。そして、森林や水資源を利用し、農地を耕すことで食料を生産し、生計を支える持続可能な農林畜産業が発展しました。この農林畜産システムは今も受け継がれています。

伝統的な水管理

森林で蓄えられたミネラルを含む清冽な水が水田に導かれています。山奥の河川から取水し遠くからの水路を維持管理したり、ため池に水を溜めて水資源を確保し、水路組合等の水利組織によって共同作業で維持管理を行い、稲作が行われています。



水
の
利用

山
の
利用

木炭の需要は昭和30年代より減少しましたが、森林資源を循環利用した原木シタケ栽培などの原木利用のほか、木炭の生産、家畜敷料、建築用材として利用し、水源涵養機能を維持しています。



棚田



農地
の
利用

牛ふんや山草による堆きゅう肥を施用して土づくりを行い、現在、仁多米が生産されています。また、和牛の産地として「奥出雲和牛」の飼養管理技術や繁殖基盤を受け継ぎ耕畜連携の農業が営まれています。



世界農業遺産 (GIAHS) とは

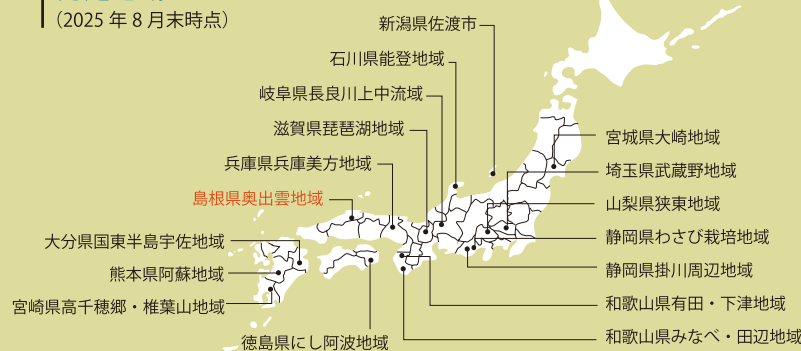
GIAHS: Globally Important Agricultural Heritage Systems

世界農業遺産とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、ランドスケープ及びシースケープ、農業生物多様性などが相互に関連して一体となった、世界的に重要な伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）であり、国際連食糧農業機関(FAO)により認定されます。



国内の世界農業遺産 認定地域

(2025年8月末時点)



奥出雲町

島根県

【位置】

島根県南東部に位置する標高約250～700mの中山間地域

【農業データ】

農業経営体1,311経営体、農業従事者数2,970人、経営耕地面積2,014ha(R2 農林業センサス)



奥出雲町農業遺産推進協議会

事務局: 奥出雲町役場 農業振興課

〒699-1832 島根県仁多郡奥出雲町横田1037 TEL.0854-52-2679

奥出雲町 HP
YouTube
動画配信中▶



世界農業遺産

日本農業遺産

島根県 奥出雲町

たたら製鉄を再適用した奥出雲地域の 持続可能な水管理及び農林畜産システム



砂鉄採取跡地に拓かれた棚田景観（奥出雲町大呂 福頼集落）



奥出雲町農業遺産推進協議会